

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	ImuA (IAP) 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	R8年2月8日		~ R8年4月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 7	(回答者数)	4
○従業員評価実施期間	R8年2月8日		~ R8年4月8日
○従業員評価有効回答数	(対象者数) 10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	R8年4月10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年齢や成長課程、特性に応じて利用曜日分け。よりよい環境を提供している。	利用時間を分け、一緒に遊ぶお友だちや人数の調整を行っている。	それぞれの時間、曜日に応じたプログラムの強化。
2	成長に応じて必要な支援を保護者と一緒を考え、個別にお子さんに合わせた療育を行っている。	モニタリング等、その他の時期でも成長に応じて、今後は療育を促すアプローチしている。	子どもから自身の自分の特性を自分で知り、受けとめてもらえる環境を常に整える。
3	保護者様からの相談や保護者様同士の集まりにおいて利用しやすい時間を設けている。	家族支援を積極的に導入し、曜日の固定化や保護者様から話合いたいテーマ募集	時間が充実したものにしようとする都度、事業所において振り返りを行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多方面への送迎の対応が難しい。	送迎に対応するスタッフの人数不足。送迎を踏まえた上で利用確認の必要性	ご利用前には送迎の確認を行い、送迎可能な日曜日を確認しておく。
2	小学校(放課後サービス)との送迎のくみ合わせ。	児童発達支援は小学校お迎え前の時間となる為、午睡時間と重なることが多い。	午睡を十分に取れた上で体調が整ったような状況にならないよう配慮して対応。
3	1本が大きい放課後サービスの子どもの過激なアツリ、安全面の確保を行う。	利用時間、曜日、空間とくみプログラムも考え新しい環境の提示を常に考える必要	長期休暇にはおいて全ての利用時間、曜日を子どもの成長に合わせて見直し続ける。